様式3

学校番号 19

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立若松高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	「確かな学力」の向上を図り、知・徳・体の調和のとれた「豊かな人間性」を培い、国際社会に主体的に対応できる「生きる力」を育成する。 →120周年に向けた新たな第一歩を踏み出す（これまでの成果を総括し、シフトアップとブラシュアップを図る）		評価（総合）
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
創立110周年の節目である周年行事を終え、さらなる規範意識の向上、進路実績や部活動の躍進がみられ、保護者や地域からの信頼も高まり、校内全体の教育力向上をみることができた。また、これまでのきめこまやかな指導（生徒の学力や個に応じた教育支援）によって、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育成することができた。今後も、地域創生型学習「学故創新・若松学」を継続し、本校の真の教育力を内外に示すとともに、体験的キャリア学習の充実を図り、生徒一人一人の可能性を最大限引き出し、伸長し、「生きる力」を身につけた生徒を育成していきたい。	礼儀正しく、規範意識の高い学校をつくる	・すべての生徒が場に応じた挨拶ができる ・学校内外を問わず、ルールを守って生活することができる ・出席皆勤等校内外より、表彰される生徒を各学年延べ60名以上を輩出する	A
	若高キャリア教育プランを推進する	・多岐に亘る希望進路の100%実現を図るため、希望進路に合わせた若高キャリア教育プランを推進する ・進路実現のために、充実した個別指導を展開する	
	教科指導力と生徒指導力を高める	・確かな学力を身につけさせる為の授業力の向上に努めるとともに、全ての教師がICT活用能力を習得し、授業にいかす ・自学による学力向上を図るため、効果的な課題作成（宿題や週末課題等）を行い、内発的な学習意欲を喚起（生み出す）する環境づくりに全教職員で取り組む ・生徒の問題行動を見逃すことなく、時機をとらえ組織的な指導を行うとともにいじめを絶対に許さない環境を生徒とともにつくる	
	学校行事や部活動を活性化させ、元気あふれる若高を創る	・生徒会、ブロックリーダー、委員会活動、部活動の活性化を図り、学校行事や日々の活動をとおして課題解決能力を育成する ・部活動加入率80%を目指し、県大会出場部活動を増やす ・素直で明るく、文武両道に努力する心身ともにたくましい生徒を育てる	
	地域および小・中学校との連携を深め、信頼度を高める	・地域との繋がりを大切にし、小・中学校や関係機関との連携を深め、地域の期待に応える「選ばれる学校（→地域に求められる学校）」づくりに努める	

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	教務	確かな学力の育成のための魅力ある授業の展開	・ICTを効果的に活用して、一人一人に考える力のつく効果的な授業手法の確立を目指し、生徒にとって魅力的で質の高い授業を提供し、確かな学力の育成に努める。	A	A	B	・前年度より生徒一人一台タブレット型端末が導入され、ICT機器を効果的に活用した授業が増えている。次年度以降も、指導環境はますます充実するため、効果的な活用を促進していきたい。 ・出席率については、96．9%（4～12月平均）となり、昨年度より1%減少した結果になった。新たな生活様式での学校の在り方を近々の課題として取組たい。 ・前年度から導入した観点別評価を実施することで、教員の授業改善に繋げていきたい。
			・3年生の特色あるコース（クラス）を活かした、進路実現のための授業の充実を図り、各学年とも出席率99%を目指す。	A			
			・観点別評価の特性を活かし、シラバスを利用しての授業評価を徹底する。また、評価していく中で、授業改善の場としても活用していく。	B			
		授業規律の徹底と家庭学習の定着	・各教科における日々の宿題や週末課題の徹底を図り、生徒の主体性の育成に努める。また、自習室の有効活用を促進し、上級学校進学を目指す中上位層の底上げを図る。	B	B		・今年度も生徒たちは、遜色ない進路実績や学習成績を残したと考えている。校舎の改築中ではあるが、来年度も継続して、授業や自学自習等を行える落ち着いた学習環境を提供したい。 ・授業規律については、どの学年、クラスも年間を通して守られていたが、まだ指導の余地があると感じている。生徒一人一人が、その場に応じた状況判断を行えるよう指導したい。
			・チャイム席を守る等の、授業環境を整え、授業内での規範意識を高める指導を行う。	B			
	企画	中学生、および中学校教員への効果的な広報活動の推進	・中学校訪問において、中学校側に他校にはない本校の特長（入試方法、進路実績、部活動、地域創生、学校環境等）を情報提供することで、中学生の本校志願を強めさせる。	A	A	A	・若松学の取組を掲載した学校案内、ポスター、広報紙等の作成、また本校の面接指導についてのDVDを作成、配布したことで、他校にはない本校の特長を効果的に中学校側に提供できた。 ・中学生体験入学（8月163名、10月179名）、デイツアー・ナイトツアー（15名）、学校説明会(29名)に計386名の参加があった。体験入学については、面接講座を設けたことで中学生の関心を高めることができた。次年度は、本校からの案内が中学生に確実に伝わるよう、案内方法をさらに改善するとともに内容の充実を図りたい。
			・学校案内パンフレット、ポスター、広報紙、リーフレット等は中学生の視点に立って作成する。ホームページは、各学年、分掌、部活動が自主的に中学生を引きつけるコンテンツをタイムリーにアップしていく。	A			
			・中学生体験入学と学校説明会は、計350名以上の参加者を目指す。（昨年度：体験入学270人、学校説明会27名参加）申込方法は、中学生によるWeb申し込みを継続し、体験入学の内容充実を図る。	A			
		防災意識の向上と防災教育の充実	・火災とともに、地震、風水害、津波などの自然災害への意識を高めさせ、災害に遭遇した際に適切な行動がとれるような防災教育を実施する。	B	B		・防災訓練は校舎改築のため、避難経路が昨年度と変わったが、教員の的確な指示と生徒の冷静で整然とした行動により、集合状況は例年以上に良好であった。次年度は、防災訓練の期日を早めることで、早い時期から災害に備えるとともに、防災についての啓発に努めたい。 ・PTA活動は、オンラインでのPTA総会を実施するとともに、保護者と生徒へのアンケート調査をもとにした研修会での発表やPTA新聞の発行等を行った。次年度は、さらにPTAと担当教員との円滑な連携を図りたい。
			・防災に関する資料を積極的に校内掲示する。また、各教科指導の中で、さまざまな防災に関する話題を提供することで、防災意識の啓発を図る。	B			
		PTAとの連携による学校活性化	・オンラインによるPTA総会を実施し、書面決議を行うことでPTA活動を円滑にスタートさせる。また、3年間委員会活動が十分できていないため、PTAと各担当教員との連携強化を図るとともに、PTA活動の活性化を図る。□	A			
生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣の確立 「生きる力」を備えた生徒の育成	・必要に応じ登校指導・下校指導を行い、社会のルールやマナーを守れる生徒を育成する。	A	A	A	・本年度もSNSに関わるのトラブルが多く発生した。近年この事案が増加しており、本年度始めに規範意識育成学習①スマホ安全教室を実施したが、夏季休業を境に事案が増加した。来年度に向けては、規範意識育成学習の活用と日常の教育活動の中で、規範意識を向上させる指導をクラスHR・授業での指導が必要になってくると考える。また、ネットパトロールを複数の職員にて実施する。
			・規範意識を高め育てる指導の実践を目指す。	A			
			・ネットパトロール等の指導を徹底・強化する。	B			
		元気溢れる若高生を創る	・各行事をとおして課題解決能力、「豊かな人間性」を育成する。	B	A		・校舎改築中につき、学校行事が制限されての実施となったことを踏まえ、まだ数年の改築がある以上今できることを生徒会を中心に考えさせ生徒の様々な能力を育成しなければならない。 ・1年生の部活動加入率は、高い水準を保っている反面退部していく生徒もいる現状にある。部活動集会を実施し他の部活動同士のいい刺激となるようにしたい。また、部活動生が学校の1番の広告塔ということを自覚させる。
			・部活動加入率80%以上を目指す。	A			
			・全生徒が学校の広告塔となり校内外において責任ある行動ができるよう育成する。	A			

学校関係者評価

評価（総合）	
A	・学校が一丸となり、生徒一人一人と向き合いながら、未来を担う人材として育成していく姿勢が見て取れます。 ・創立120年、次のステージに向け、様々な活動をされていることに期待が高まります。 ・地域や地元企業との交流を通じた「若松学」は、これまでも素晴らしい結果を残しています。今後も地域に根ざした教育が幅広く展開されることを期待します。 ・地域や企業に若高生は強く求められているので、若松区役所としても必要に応じて積極的に支援をしていきたいと考えています。 ・コロナ感染対策等校内での先生方の指導が行き届いており、生徒も柔軟に対応していることは「信頼関係」のあかしだと感じます。 ・地域に信頼される学校づくりを今後も継続して実践していただきたいと思います。 ・自転車ヘルメット着用推進モデル校としての各種取組みは、他校や地域住民に対して模範となる素晴らしい取組みであると思います。 ・性犯罪被害防止のためのSNS発信など、SNS上のトラブルやインターネット犯罪に対する防犯意識の高さが伺われます。 ・若松みなと祭りをはじめ、多数の地元イベントに積極的に参加するなど、地域との繋がりを大切にしている姿勢に好感を抱きます。 ・先生方の不断の努力による個別指導の質の向上やそのことの学校文化における定着により、教育活動の成果や学校の安定性に寄与していることが、明らかになってきたように感じられます。 ・地域との連携による「若松学」における成果がいろいろな場面に出ていると思います。本来の教育活動に主体である「授業」に影響を与えない範囲で、「発展性・系統性のある学び」として取り組むべきものと思います。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・ICT機器を活用した効果的な教育が行われていると思います。 ・その活用法はこれからも広がりを見せていくと思われるので、柔軟な対応を期待します。 ・出席率が年々1%程度減少しているところが若干懸念されます。新たな生活様式の中で、学校の在り方を課題として取組を進めて欲しいと思います。 ・若松学の取組は、北九州市長も注目しており、今後も多角的な視点からの学びを期待しています。 ・状況判断を適切に行える指導とともに、今後も若高でしか学ぶことが出来ない特色ある教育を行って欲しいと思います。 ・ICT機器の授業での効果的活用は、次代の変化に対応した素晴らしい取組みであると思います。 ・出席率が高いことは、生徒・学校の一体感や充実感を達成する重要な要素と思われます。 ・ICTの活用は授業を受ける側にとって、視覚的要素が増えることから、知識の定着や意欲関心が高まることに繋がります。動画や資料図等、良質なコンテンツを見つけ（作成し）、大いに活用を図ってほしいと思います。 ・生徒それぞれの進路に応じた指導が手厚く、生徒と先生方の距離感が程よく、関係性もとても良く感じられました。
A	・選ばれる高校として「若松学」等の様々な活動が行われている事は大変評価できました。 ・今後も「若松学」など、若高ならではの取組を進め、効果的な発信を期待しています。 ・令和6年は地震災害から始まりを迎えました。防災訓練とともに、能登半島へ応援に行った市職員の活動報告会等を行うことで防災意識の向上が更に高まると思うので、検討をお願いしたいと思います。 ・対面、非対面を問わず、様々なPTA活動を通じて、学校運営に活かしていただきたいです。形式を変えるなどして活動を継続していただきたい。 ・自然災害の脅威はご承知の通りですが喫緊の課題として、防災意識の更なる啓発をお願いします。 ・広報内容や機会はかなり増えていると思います。中学校側とのより一層の密な関係を構築し、全教職員のスキルやコネクション、本校在校生の生の声を中学校側に届け、本校の真の姿の理解・浸透を図ってほしい。 ・今年度、夏季休業中の講座実施日で初の私服登校が行われました。ジャージや制服の生徒がほとんどの中、朝から服装の件で保護者と口論になった家庭もあったようです。このことから生徒がTPOに合わせた身だしなみの必要性を学ぶ良い機会になったと考えます。
A	・生徒の生き生きとした姿や元気な挨拶に触れ、取り組んでいる生徒指導はブレなく効果的に行われていると思います。 ・その上で、SNSに関するトラブルは今後も避けては通れないものとなるため、現在の取組を更に進めて欲しいと思います。 ・部活動の活性化は大変重要であり、そこに注力されていることは強く感じられます。 ・退部している生徒に対して、その原因を考察し、今後に活かしていただきたいと思います。 ・SNS等を起因とするトラブルに生徒が巻き込まれないように、その危険性や実害等を具体的に指導していくことが重要と思われます。 ・質の高い生徒指導が展開されていると感じました。いかに保護者との関係性を日常的なものにし、良好な関係を構築し、学校の信頼性を揺るぎないものにするかにかかっていると感じます。PTA通信や学年通信を通じて、質の高い生徒指導状況を発信し、先生方が自信を持って生徒指導ができる環境を維持してください。 ・自転車のヘルメット着用においては、生徒会が中心となって良く活動していたと思います。

	保健	感染症予防	・新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症予防に努め、学校行事等を行える教育環境を整える。	B	A	A	・新型コロナウイルス感染症が5類になったが、終息をした訳ではなく、現在も流行していることを十分に理解し、引き続き感染予防対策を実施していく。 ・インフルエンザに対する感染予防を今以上に生徒に呼びかけ、教育活動に支障が出ないよう注意をしていく。	A	・新型コロナウイルス、インフルエンザなど感染予防対策に苦慮され、様々なことに対応されている各教員の努力が感じられます。 ・引き続き難しい局面が続くと思いますが、頑張って下さい。 ・健康診断等も校舎改修などを考慮して、工夫して行われていると思います。 ・健康管理並びに衛生管理は、自己管理の第一歩ということについて、継続した指導をお願いします。 ・全職員の緻密な連携と協力で、細やかな指導ができていると感じます。感染症予防もそうですが、個々の生徒に応じた保健・衛生・相談活動が展開されていることに頭が下がります。 ・工事による水道管の破損により、上下水道のトラブルが起こった際の迅速な対応については、先生方の高いチーム力を感じました。また欠席の連絡が年度途中よりLINEとなったことについては、保護者としては若干戸惑う機会があったので、今後の課題点だと思いました。
		新校舎改築に伴う美化活動の推進	・新校舎での授業が開始されたので、環境整備及び美化活動を活発に行うとともに、校内の安全管理を十分に行い教育環境を整える。	A			・校舎改築工事も中盤にさしかかり、生徒は工事とともに授業を行うことに慣れてきているが、このような状況であるからこそ再度注意喚起を行い、慣れからくる事故等を起こさないように注意をしていく。	
		健康管理・安全面、衛生管理の徹底	・生徒の健康診断や救急救命講習会等を実施し、安心、安全に学校生活が送れるよう努力する。 ・生徒の情報を共有し、最適な指導が行えるよう教職員の共通理解を図る。	A			・健康診断等を行う場所が校舎改築に伴い不足しているので、実施方法等を工夫し授業や行事に対する迷惑を最小限にとどめ、効率の良い計画を立てる。 ・生徒一人一人の健康状態、情報を更に共有し健康で明るく学校生活が送れるようにする。	
進路指導部	進路	生徒の学力向上と 主体的な進路選択能力の育成	・朝課外において習熟度別に講座を実施するなどして、より生徒の理解度に合わせた授業を行う。また、全学年で『スタディサプリ』を使って「振り返り学習」を行うことで基礎的・基本的な知識の定着を図る。また、『到達度テスト』を受験させることで生徒の理解度を図り、学習教材『ベースメント』を課外等で活用することで『到達度テスト』への意識付けを行う。	B	A	B	・今年度は、希望制課外の受講者が減少し、なぜ進路実現のために頑張らないといけないかが生徒に伝わっていないのではないかと感じた。もう一度、生徒に何のために勉強するのかを考えさせないといけない。 ・来年度より1・2年生の朝課外をやめることから、放課後の時間の効果的な利用を考えていく必要がある。現在、朝課外で実施している数学・英語の習熟度別の補習、スタディサプリを活用しての学び直しを放課後の30分を使って実施していきたい。 ・3年生については、始業前の30分、放課後の時間を使っての希望制の課外を実施していく。 ・キャリア教育については、実施時期・内容をもう一度考えて精選していく。 ・若松学については、どの時期に何をするかなどのシステムを構築していく。	A	・卒業後の進路の選択肢が増えている中で、生徒に寄り添った様々な取組が行われていると思います。 ・希望制課外の目的などを生徒に考えさせ、進路実現に向けた取組を今後も進めて欲しいと思います。併せて、保護者への啓発も更に進めて欲しいと思います。 ・大学等への進学または就職にせよ、生徒に寄り添った指導が若松高校の特長だと思いますので、引き続き、関係機関等との連携も深め個別指導の充実を期待します。 ・様々な学習の中で、人はなぜ勉強するのか、人はなぜ働くのか、ということについて、生徒たちが自ら考え、全員がより充実した人生を送れるよう、丁寧なご指導をお願いします。 指導経過・指導結果、ともによく頑張っていると思います。一方、若松学の領域になると思うが、持続可能な「若松」という地域を考える上で、本校生徒がこの地域で働く動機を育てる環境も作るべきと考えます。その上で個人の選択として、この地域が選ばれないことは仕方ありませんが、昨年取り組んだ「企業探訪」発刊時の思想である、この町にある企業の魅力を感じ取れるよう、次にくる発展的学びとして（選択的希望者でいいので）地域の企業を知ったり・企業の方とふれあう企画等の検討をお願いしたいと思います。 ・朝や放課後に実施されている課外があったからこそ、学習内容の振り返りを行うことが出来たと子どもから聞きました。時代の変化に伴い、課外の実施も厳しい状況であるが、放課後などでの有効な時間活用をして欲しいと思います。 ・専門学校等で実施されているAO入試を希望している生徒について、今後更に増える可能性もあります。そのため、AO入試を希望する生徒に対しての対応も今後更に進めて欲しいと思います。
			・1年「夢授業」「職業ガイダンス」、2年「インターンシップ」「上級学校授業体験」、「若高シンポジウム」などのキャリア教育関連の行事を通じて、自らの将来のビジョンを描く能力やその実現のために今どうすべきかを考え、実行する能力の育成を図る。	A				
			・『若松学』の学習に1・2年次に体系的に取り組むことで、地域の魅力や課題に気付き、考え、行動を起こしていけるような能力や資質を育成する。	B				
			・卒業生による「就職座談会」や企業による「職業ガイダンス」・「現場見学会」などを通じて、就職希望者の勤労観・職業観の育成を図る。	A				
		生徒それぞれの希望進路の実現 国公立大学：10名 四年制大学：50名 就職内定率：100%	・高大教育連携講座や進路行事において、生徒の主体的に学ぶ姿勢の育成を図り、小論文作成能力や社会の諸問題に対して自ら解決策を考える能力の育成を図る。	B	B		・3年生の入試対策として、早めの小論文対策・指導を実施していく。生徒の進路意識の向上と学習意欲の高揚のための手だて（進路講演会など）を考えていきたい。 ・進路関係の行事や講座に生徒がもっと参加するように、教員側からもっと働きかけていきたい。 ・生徒の進路実現のために、本校の特色である「個別指導」の充実を図る。 ・就職指導に関しては、来年度も外部機関と協力して内定率100%を継続する。	
			・課外の内容の精選を行い、より生徒のニーズに合わせた形で課外・補習を行う。また、推薦・総合型選抜入試対策として個別指導を充実させる。そのために、学年・各教科との連携を図る。	B				
			・就職希望者に対しては、校内での面接指導やSPI対策講座、外部講師による面接指導を行い、第1希望企業の内定を目指す。	A				
	人権・同和教育推進	人権・同和教育推進の取組の充実	・様々な教育活動を通して、人権を尊重することの大切さを学ばせるとともに、教師自身の体験や経験から得たことや「伝えたいこと」「訴えたいこと」の伝達といった、心の部分を深化させることで、人権を尊重する「ねらい」や目的を持って取組を進める。	A	B	B	・今回、差別事象を伴ういじめ事案が発生したことは、これまで進めてきた人権・同和教育推進の取組が形骸化してきていることの表れであり、これを見直す機会であると捉え、次年度以降にしっかりと活かしていきたい。具体例として、特設授業の内容や行い方だけに留まらず、一般教科における授業内容とも関連を持たせながら、横断的な計画を立てる等、人権・同和教育と各教科のねらいの関連性にも注目し、学校教育全体を通じて推進していく姿勢を、これまで以上に高めていきたい。	A	・人権、同和教育は課題を抱えつつも、熱心に取り組んでこられていると思います。そのような中で、いじめ事案が発生したことは、非常に残念なことであるが、これを教訓とし、次年度以降に活かしていただきたいと思います。 ・社会が複雑化してしている中では、生徒が加害者にも被害者にもなり得るので、引き続き、きめ細かな指導をお願いします。 ・生徒情報交換会などを通して情報提供が適時適切に実施されていると思います。 ・引き続き、タイムリーな情報提供をお願いします。 ・社会のルールやマナーを守ったり、規範意識を持つことの大切さや、人を思いやることの大切さについてのご指導をお願いします。 ・この学びに完璧な教育はありません。実践あるのみです。何か起きたときにそれまでの教育の真価が問われる分野なので、結果を恐れず先生方の共通理解の元に進め、常にPDCAサイクルを活用できる指導環境や何か起きたときに即時対応できる対応体制を整えて欲しいと思います。また抽象事案だけでなく、具体的行動を伴った道徳教育にも力を入れて欲しいです。 ・ペーパーレス化が進んでいる現在、様々なアンケートに関してもLINE等のSNSを活用し、円滑に集計作業が進めば良いと思います。 ・若松高校の良さである「生徒と先生の良い距離感」を生かし、生徒の悩みなどに対してすぐに話すことができる環境を続けてほしいと思います。
			・特設授業では、外部講師の招聘や視聴覚教材の効果的な活用など、生徒の実態に応じて創意工夫した授業を展開できるようにする。	B				
			・教職員に対し人権・同和教育に関する研修会等への参加を促すことで、人権意識のさらなる高揚を目指す。	B				
		就学・修学・進路保障の取組を通した「生きる力」の育成	・統一応募用紙や違反質問に対する学習を充実させることで、生徒一人一人の人権が保障された進路実現に向けての取組へとつなげられるようにする。	A	A		・実態が多様化してきている生徒に関する様々な情報を知ることで、生徒を共感的に理解し、信頼関係を構築することに繋がることから、就学支援金の手続きに関する情報提供も含め、生徒情報交換会をさらに充実させていきたい。奨学金は、担当である池田先生によるきめ細やかな対応により、入学時ならびに卒業後に向けた奨学金の手続きを滞りなく進めることができている。正しい情報の把握や状況の伝達等も含め、クラス担任や事務室等と連携を図りながら、今後も対応を進めたい。	
			・就学支援金や各種奨学金に関する情報の提供や活用を通して、生徒やその家庭が、経済的な見通しをもって進路実現を図ることができるようにする。	A				
			・生徒情報交換会等を通じて、生徒やその家庭に関する情報を教職員間において共有することで、適切な対応や支援ができるようにする。	B				
		人権侵害である「いじめ」のない学校づくり	・クラス担任や学年団、教職員全体での連携から、早期の解決へとつなげることができるようにするとともに、その後の様子などから、経過について見守る一助となる。	B	B		・各種アンケートは、生徒や保護者がその思いを表す大切な機会であり、しっかりとそれを受けとめ、きちんと活かす意識をもち、適切な対応に繋げられるようにしていきたい。人間関係のトラブル等、いまだ発生している状況にある。生徒指導班などとも連携・協力しつつ、実施を検討していくとともに、生徒一人一人の言動に対し、教職員がよりアンテナを高くし、お互いに連携を密にとりながら、きめ細やかに対応できるようにしていく必要がある。	
			・毎月実施する「いじめアンケート」「学校生活アンケート」の結果などをもとに、早期の状況把握から、いじめを起こさせないことを目指した対応に活かす。また、アンケートの実施方法や内容等を適宜改善し、さらなる効果的な取組へと繋げられるようにする。	B				

学年経営部	研修	職員研修・若年教員研修の拡充	・現状を鑑みながら、時世と職員のニーズに対応した研修を職員研修として計画、実践する。	B	B	A	・研究授業は、各段階の先生方が実施頂くと共に、多くの先生に参観頂けた。この点に関しては、相互の教科指導力並びにICT機器の活用技能の向上に繋げられたと考える。但し、研修内容が情報関連に偏重してしまったこと、研修活動において全員参加とならなかったことが課題点と考える。次年度の改善に努めたい。	A	・各年代の多くの先生方が研究事業に参観され、情報共有等が行われていると思います。 ・今年度の課題を次年度に活かしてください。 ・様々な工夫により、図書館利用が増加していることは大変素晴らしいと思います。 ・さらに、生徒が継続して図書館利用、読書ができるような取組を進めて欲しいと思います。 ・「読書は、他者の様々な人生を追体験する場」とも言われることから、更なる活性化を期待します。 ・公立学校は研修の機会に恵まれていることを、先生方に認識して欲しいと思います。またその機会を、先生方が大切にして欲しいと思います。
			・各分掌の先生方と連携して、各段階に応じた研修が充実できるように研究授業の参観を促す。	B				
			・先生方の高めたい資質・能力に応じて研修が受講できるように、校外研修情報を積極的に提供する。	A				
		図書館利用の促進	・図書委員による図書館通信の発行により、委員会活動の活性化と書籍の充実化を図る。	A	A		・司書の先生が積極的に取り組んで頂き、書籍の充実並びに図書館通信の刊行も円滑に行えた。また図書委員長を中心にした他校との交流会では、生徒が積極的に取組、貢献していた。更に年度当初の図書館オリエンテーションや全校一斉の読書週間が円滑に進められたことに加えて、第1学年が実施している「朝読」により、図書館の貸出数の増加が見られた。読書の習慣化と朝の落ち着いた時間の確保の上でも次年度以降も継続、拡大できればと考える。		
			・一年生を対象とした「図書館オリエンテーション」をはじめとして、全学年対象の「朝読書週間」「読書の時間」などの企画を推進して、生徒が読書を習慣することにより、一人あたりの貸出冊数の増加を目指す。	A				
			・選書委員会の指導助言のもとに図書館資料を充実させ、図書館利用者の増加を図る。	A				
	1学年	社会性、人間性の向上	・自律した人間として遅刻や欠席の生徒を出さない指導を行い、年皆勤60名以上を目指す。	B	B	A	・中学校生活をコロナ禍で過ごしたことが原因の一つか、体力的な面を理由に遅刻や欠席をする生徒が目立った。また他者との関わりが苦手な生徒も多く、精神的ストレスを抱えて欠席というケースも目立った。社会性の向上については意欲的な場面も見られたため、今後も生徒の意欲を引き出しながら、それぞれの課題について乗り越えさせたい。	A	・長期に渡るコロナの影響は計り知れないと感じますが、生徒に寄り添いながら信頼関係を築き、それぞれの課題を乗り越えさせていただきたいと思います。引き続き、基本的姿勢とともに、他社との関わり、協働、そしてリーダーシップなど、社会で求められる資質の習得について指導をお願いしたいと思います。 ・社会性、人間性を形成していく大切な時期と思われます。笑顔溢れる、充実した学校生活を過ごせるように、ご指導をお願いします。 ・コロナ禍を経て、入学した生徒達の指導は、大変なものと推察します。大きな集団でうまくいかない場合、小さい集団でうまくいく場合もあります。学級活動、特にHRの質の向上による充実を図られるのも、一つの方法かと思います。 ・制服が一新し、服装の乱れも無く、落ち着いているように感じました。この状態を今後も継続して欲しいと思います。
			・授業に臨む態度や挨拶、掃除など、常に礼儀を重んじることのできる生徒の育成を図る。	A				
			・他者に対する思いやりを持って、生活することのできる生徒を育成する。	B				
		学習教育、キャリア教育の充実	・基礎学力・学習習慣の定着に向けた取組を随所に図り、進路実現に向けて努力できる環境を整える。	B	A		・朝学や勉強会の設定、キャリア教育に関する様々な行事、資料の準備を活発に行った。しかしながら一方で、生徒の学習意欲の向上との結びつきが弱く感じられた。次年度はより希望進路を意識させ、学習意欲の向上、学習習慣の定着に努めたい。		
			・進路講演会等を工夫して活用することで、生徒自身に自身の進路について見通しを持たせる。	A				
			・朝のHR前に「朝学・朝読」、コンクール等の機会を設定し、落ち着いた雰囲気づくりや学習意欲の向上を図る。	A				
		生徒個々に応じた円滑な対応	・リーダー育成を図り、適宜活躍の場を設けるとともに、生徒主体で学年が動くような体制を整える。	A	A		・行事を中心にリーダー育成を図り、リーダーの指示のもと、まとまりのある集団行動を実行することができた。しかし、行事以外での生徒の主体性をさらに向上させていく必要があると感じている。また学年団や分掌との間では、適切に連携がとれているため、次年度も継続したい。		
			・学年団や分掌等で密に関わり、フォローが必要な生徒の対応を迅速かつ円滑に、学年全体で行う。	A				
			・保護者との関わりや業務に関して、先生方一人一人の負担の是正を図る。	B				
	2学年	基本的生活習慣の確立	・時間厳守、安易な遅刻、欠席、早退をさせず基本的生活習慣を確立させる。	A	A	A	・基本的生活習慣の確立については朝課外の特定の生徒の朝課外の遅刻、欠席があった。出席皆勤についても目標に届かなかった。しかし挨拶や言葉遣いについては様々な教育活動や外部での活動、インターンシップ等を通して多くの生徒が社会人として適切に行えていると考える。次年度も継続したい。	A	・挨拶や言葉遣いについては様々な教育活動や外部での活動、インターンシップ等を通して多くの生徒が社会人として適切に行えているとのことで、先生方の苦労が実を結んでいると思います。 ・様々な行事の機を捉えて、生徒の主体性を育みリーダーシップを発揮できる生徒が増えていることは大変喜ばしい事です。引き続き、地域の人や様々な職種の人等との触れ合う機会を作り、人として成長できるように促していただきたいと思います。 ・将来の夢や、自分の姿を想像しながら、その実現に向けて努力を続けて頂きたいです。 ・「将来像を描く力の育成」 テーマがとてもいいと思います。是非力を入れて取り組んでください。 ・若松みなと祭りなど、地域に密着した活動を通して、生徒自らの進路を考える良い経験になったと思います。
			・出席皆勤50%を達成する。	B				
			・挨拶や場に応じた適切な言葉遣いを意識させ、他者から信頼される生徒を育成する。	A				
		進路目標の決定と主体的な学習習慣の確立	・進路に応じた指導を行い、考査や模試において振り返りを習慣化させる。	B	B		・考査前には積極的に学習に取り組む生徒が多い。また2年生後半から進路について真剣に考え、入試対策などに取り組む生徒も増えた。様々な行事を通して進路について考えた1年だった。また授業にも落ち着いて取り組めており次年度も継続したい。		
			・課題の提出を徹底させ、家庭学習時間を確保することで、自ら学習する意欲を高める。	B				
			・授業に積極的に参加し、課題や小テスト、提出物など疎かにさせない指導を徹底する。	A				
		将来像を”描く”力の育成	・学校行事においてそれぞれが役割を持ち、責任感やリーダーシップを発揮する場を設ける。	A	A		・1年間、様々な行事でリーダーシップを発揮できる生徒が多く出てきた。また進路選択についてもいろいろな情報を入手し、自分の将来について考えることができた。また様々な職種や学校の人々と触れ合うことで自分の意見だけでなく様々な意見を客観的にとらえ人間関係を構築した。次年度は与えられる情報や機会だけでなく自分で考え行動し進路決定をするよう指導したい。		
			・様々な教育活動を通じてこれからの将来像を描き、主体的に進路選択を行う機会を設ける。	A				
			・様々な教育活動を通じて良好な人間関係を築こうとする態度や姿勢を養う指導を行う。	A				
	3学年	進路意識の高揚と個に応じた適切な進路指導の充実	・安易な妥協を許さず、高い進路目標を設定させ、学年全体が一丸となって希望進路実現を目指す。	A	B	A	・進路先の検討については、進路先の情報共有をすることで、可能性を広げる進路選択ができた。しかし、模試の分析については、分析結果を学年・教科で共有できていなかったため、教科担当を交えて会議を行う時間を確保することが必要である。また、工事によって自学に使用する教室が遠くなっているため、自習室や自学のルールを明確にして、継続的に指導をすることが求められる。 ・学年代表が積極的に行動して、指示をする体制ができていたことで、行事や集会ではまとまりのある集団となった。しかし、1ヶ年出席皆勤者数は目標に届かず、2学期以降の欠席者も増加している。本校では推薦入試の合格者の割合が高く、今後は総合型選抜での合格者も増えることが確実であるため、合格後にも積極的に学びに向かわせる指導をしていきたい。	A	・行事や集会ではまとまりのある集団になっているのは、教科、学年を超えた協力体制で個別指導を徹底するという学校の意思と努力が、生徒にも十分に伝わった結果であると思います。今後も、学年の代表者だけに限らず、全ての生徒が当事者意識を持って行動できるよう、指導をお願いしたいと思います。 ・多少の困難にぶつかっても、挫けず自分の道をしっかり歩んでいく道標となるようなご指導をお願いします。 ・進路決定後の教育は若高の課題点とも言える所です。次のステージに進むための学力向上も大切ですが、人間性を高める取組が大きな効果をもたらすこともあります。学校を挙げて、この点に注力をしてみてください。 ・生徒それぞれの進路に向けて、一人一人に対するサポートが本当に素晴らしいと感じます。大変な3年間だったと思いますが感謝申し上げます。
			・模試の成績分析と共有を行うとともに各種の研修に参加して、適切な指導ができるようにする。	B				
			・自習室の環境を整え、自学力を向上させる。	B				
		最高学年として自覚と誇りを持つ、下級生の模範となる生徒の育成	・全校集会や学校行事については、ブロックリーダーが統率するとともに学年で範を示す。	A	A				
			・社会人として求められる「時間の厳守」、「挨拶の励行」、「清掃の習慣」を身につけさせる。	A				
			・安易な欠席を許さず、1ヶ年出席皆勤50名以上を目指す。	B				
		学校行事の充実	・学校行事における教育的効果を向上させるとともに、主体的に活動できる生徒を育成する。	A	A		・学年として、新しいことに挑戦するという目標を掲げ、代表生徒がそれを踏まえて主体的に活動したことで、行事としての成果を出すことができた。次年度に向けて、代表以外の生徒が、当事者意識を持って行事に参加できる指導をしていきたい。		
			・前年を踏襲するだけでなく、新しいものを生み出す意識を持たせ、行動させる。	A				
			・協働の体験を通して、社会や集団の形成者としての資質・能力を身につけさせる。	A				

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策(※学校記入)

・地域創生型学習「学故創新・若松学」を中軸に、生徒を主語にした学びの姿（本校の真の教育力）を内外に示す。

・生徒一人一人へのサポート（個別最適な学び・キャリア教育等）充実を継続する。

・学校行事の充実とHRの質の向上による教職員の資質・能力のさらなる向上を目指す。

・ホームページの迅速な更新と多種多様な最新の情報の提供により、本校の魅力（生徒、教職員の創意工夫の軌跡）を内外に発信する。

・多様な広報活動に挑戦し、中学生の志願者増に今後もつなぐ。

評価項目以外のものに関する意見

・ミライトークなどの行事への生徒の参加等は、若松高校が地域に必要とされ、地域に愛され、そして地域に根ざした高校の証だと思います。また「若松学」を通して地域を知ることは、将来のためにも必ずプラスになるものです。色々な地域行事に参加する事は、校長先生をはじめ先生方の苦労は絶えないと思いますが、引き続き、よろしくお願いいたします。
・先生方が一人一人に対するサポートが充実していると思います。若松高校に子供を入学させてとても良かったと今感じています。皆様に感謝します。ありがとうございます。